

「死」と「葬儀」を考える

8月27日(日)

どなたでも
参加自由!

場所: 本堂 勉強会 14時~16時 / 交流会 16時~18時

話: 平田 信活 (岡本寺住職)

3人を見送って「死」に対する考え方が変わってきたのは確かだ。「打つ手なし」ぐらいの方が楽に行けそう—というのが3人を見送っての感想だ。

この世にいる人、全員があの世界に行くのだが、見送る側も、見送られる側も覚悟が必要だ。特に、見送る側の覚悟が必要だ。今回、「打つ手なし」でただ見守るだけという状況を経験した。

意識朦朧とした親を目の前にして何をするのか。残された時間は確実にあとわずかしかない。そのような中であなたなら何をやるだろうか。

さて、「死」を迎えたならば、「葬儀」の準備が始まる。ここ数年、「家族葬」が半分以上の割合を占める。中には「1日コース」というのがあって「お通夜」なし、というものもある。派手なお葬式をしるというのではない。故人と様々な関係のあった人々とのお別れの場であるので、故人が会いたがっていた人、故人に会いたがっていた人にはなるべく連絡することをおすすめする。あなたはどんな葬儀をのぞむだろう。たくさんのお金をかけて納得のいかない葬儀になってしまったという方もある。

皆さんのご意見も聞きながら、納得する葬儀はどうすれば行うことができるのかを考える。



檀信徒以外の方も、曹洞宗以外の方も、初めての方も、お気軽にご参加ください。

二十五三昧会(にじゅうござんまいえ)とは、お寺が中心となり「メンバーの誰かがヘルプを願い出たら、みんなで出来る範囲のお手伝いをしよう」など、ゆるやかな人的交流の互助的な共同体です。入会費や制限など一切ありません、詳しくはお寺までご連絡を。(平日10時~16時)

会員
募集中

お問い合わせ—観瀧山 岡本寺 (こうほんじ) TEL.072-793-0203